

## 半田市の環境の現況

### 1) 半田市の概要

#### (1) 位置

半田市は、知多半島のほぼ中央に位置し、面積は47.42km<sup>2</sup>、東西9.76km、南北8.22kmであり、北は東浦町、阿久比町、西は常滑市、南は武豊町に接しています。また、東は衣浦港となっており、海岸線の延長は10.70kmです。

地形は中央を南北に流れる阿久比川によって西部丘陵地と東北部丘陵地に分かれます。これらの丘陵地はさらに神戸川、稗田川により2分され、概ね4丘陵となっています。



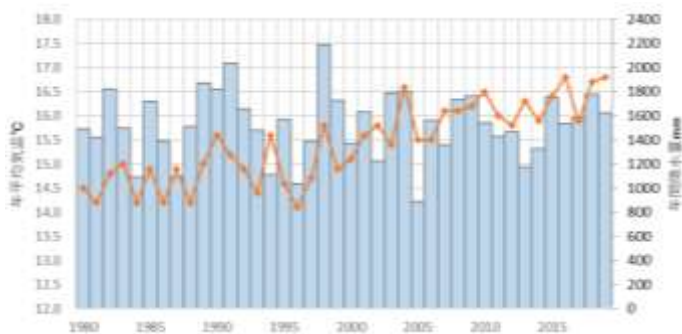
#### (2) 気象

南知多地域気象観測所の観測結果によると、平成27(2015)年から平成31(2019)年までの5年間の平均気温は約16.5℃、年間平均降水量は約1,656mmとなっています。近年、平均気温は上昇傾向にあると考えられます。

また、熱帯夜についても同様に増加傾向がみられる一方で、冬日は減少傾向がみられ、本市においても地球温暖化による影響が現れつつあると思われます。

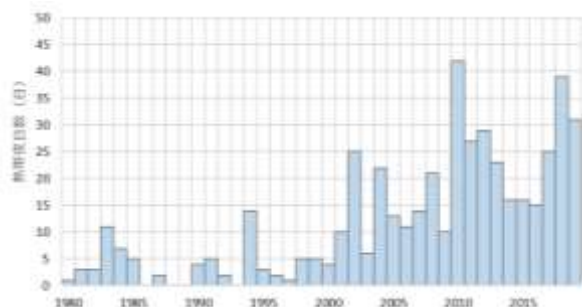
風向きは主に北西の風であり、風速は年平均で3.1m/s、冬から春にかけてやや風の強い傾向にあります。

#### ●年平均気温及び年間降水量の経年変化（南知多地域気象観測所）



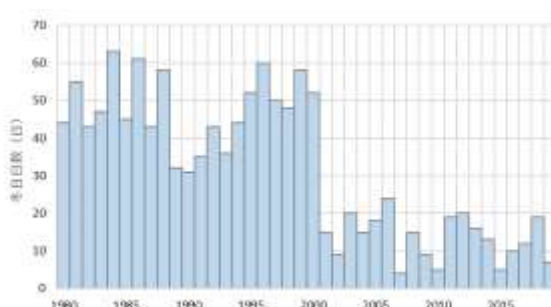
資料：気象庁

#### ●熱帯夜日数の経年変化（南知多地域気象観測所）



資料：気象庁

#### ●冬日日数の経年変化（南知多地域気象観測所）

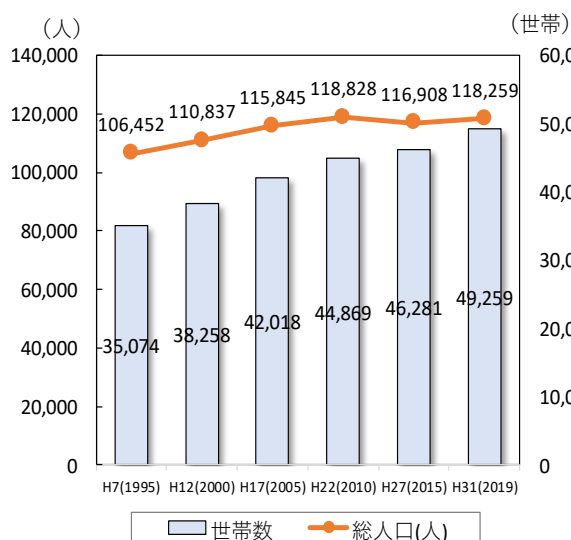


資料：気象庁

### (3) 人口

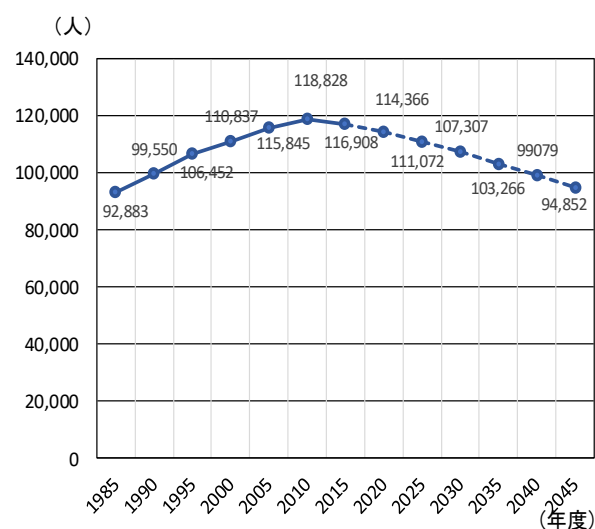
市の人口は、市制施行当時(昭和12年)の50,477人から平成7年には倍の10万人を超え、年々増加してきましたが、平成22年の118,828人をピークに一旦減少傾向にありました。平成31年にはやや回復傾向にあります。世帯数については核家族化や単身世帯などの世帯分離に伴い増加傾向にあります。

●人口及び世帯数の推移



資料：国勢調査、H31のみ愛知県人口動態統計

●将来推計人口

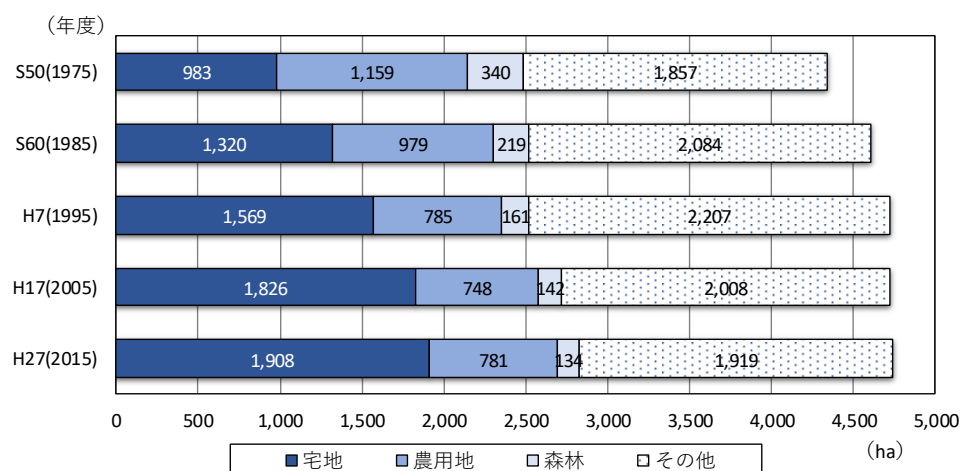


資料：1995～2015は国勢調査、2020以降は日本の地域別将来推計人口』(平成30(2018)年推計)

### (4) 土地利用

土地利用は、昭和50年から40年の間に、宅地が約1.9倍増加しています。一方、農用地は約67%、森林は約39%に減少しています。

●土地利用の推移



資料：土地に関する統計年鑑

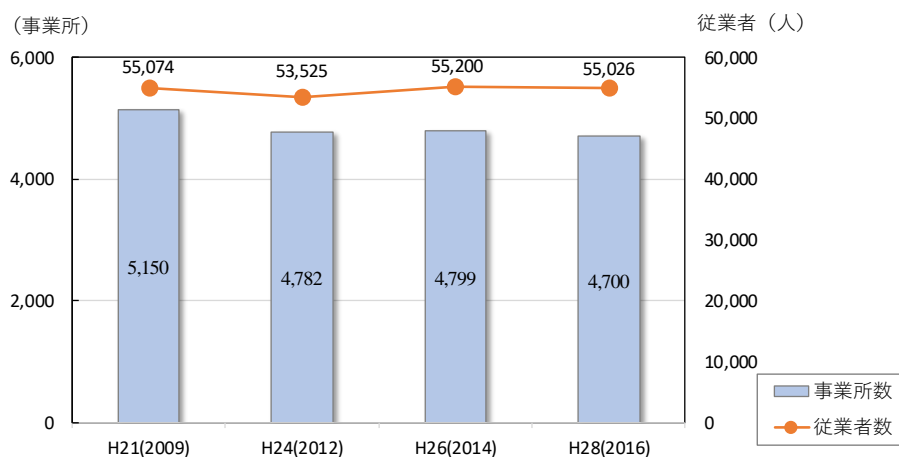
## (5) 産業

### ① 事業所

市内の事業所はやや減少傾向にあり、平成 28 年に 4,700 事業所となっています。従業者数はほぼ横ばいで 55,026 人となっています。

産業別の事業所数をみると、卸売業・小売業 (24.4%)、宿泊業・飲食サービス業 (13.7%)、製造業 (10.8%)、建設業 (9.4%) が多くなっています。

#### ●事業所数・従業者数の推移



資料：経済センサス

#### ●産業分類別事業所数・従業者数 (平成 28 年度)

	農業, 林業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業, 小売業	金融業, 保険業
事業所数	16 0.3%	440 9.4%	506 10.8%	6 0.1%	19 0.4%	132 2.8%	1 148 24.4%	91 1.9%
従業者数	162 0.3%	3 066 5.6%	16 455 29.9%	217 0.4%	434 0.8%	2 937 5.3%	10 315 18.7%	1 318 2.4%
	不動産業, 物品賃貸業	学術研究, 専門・技術サービス業	宿泊業, 飲食サービス業	生活関連サービス業, 娯楽業	教育, 学習支援業	医療, 福祉	複合サービス事業	サービス業(他に分類されないもの)
事業所数	237 5.0%	197 4.2%	645 13.7%	413 8.8%	188 4.0%	371 7.9%	20 0.4%	271 5.8%
従業者数	1, 169 2.1%	1451 2.6%	4 993 9.1%	2 204 4.0%	946 1.7%	5 879 10.7%	488 0.9%	2 992 5.4%

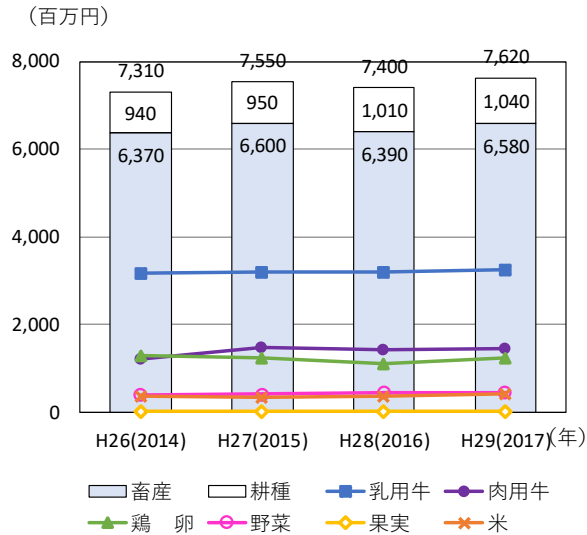
資料：平成 28 年経済センサス (活動調査)

## ② 農業

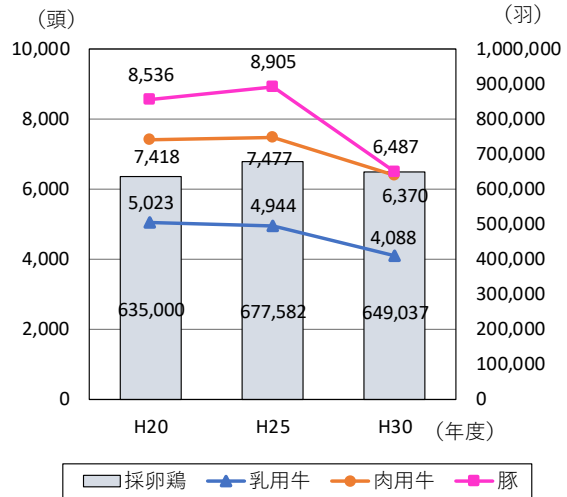
半田市の農業生産額は、ここ数年横ばい状況にあります。農業生産額のうち畜産が87%（約66億円）を占めています。

家畜の飼養頭数は、平成25年度にかけて増加した後、いずれの畜種においても減少しています。特に豚については、平成25年度の8,905頭から平成30年度には6,487頭とこの5年間で大きく減少しています。

### ● 農業生産額



### ● 飼養頭羽数



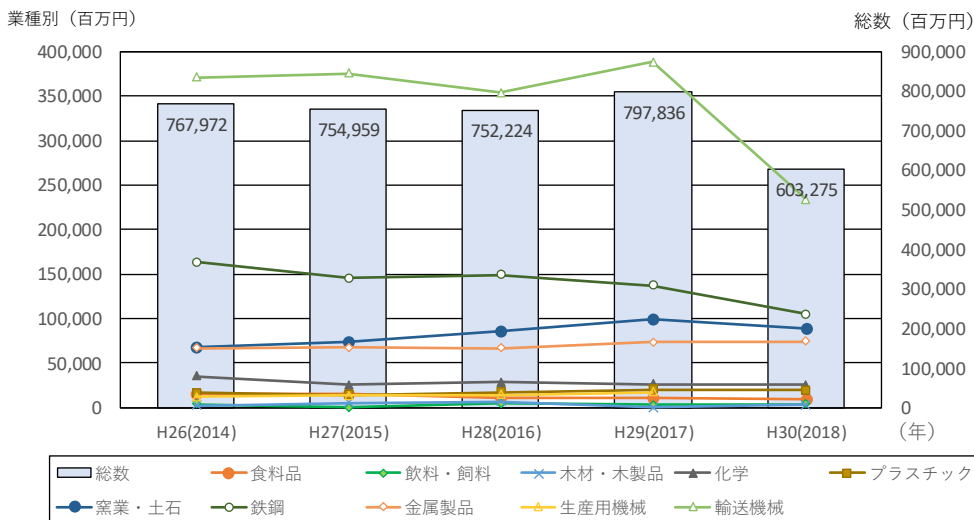
資料：農林水産省「市町村別農業産出額」

資料：半田市経済課

## ③ 工業

製造品出荷総額は、平成26年から平成29年にかけて7,000億円台で推移していましたが、平成30年には6,033億となりました。特に輸送機械の低下が大きく影響しています。

### ● 製造品出荷額等（総計及び主な産業分野）



資料：工業統計調査

## 2) 生活環境

### (I) 大気

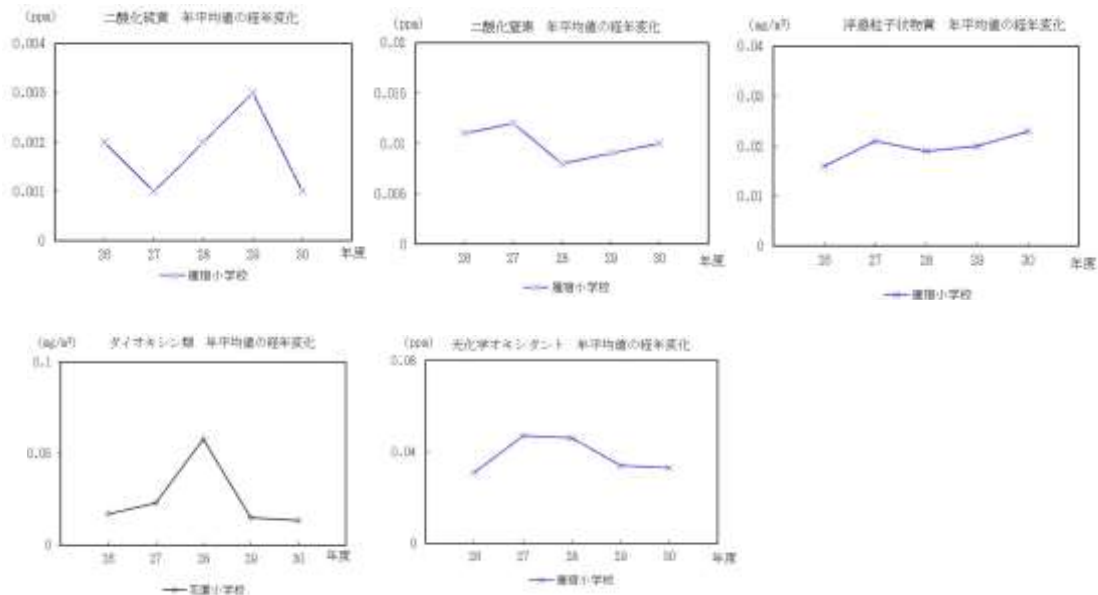
市内における大気汚染常時観測結果では、二酸化硫黄、二酸化窒素及びダイオキシン類ともに環境基準を達成し続けています。浮遊粒子状物質は、各地点とも概ね環境基準を達成しています。浮遊粒子状物質はやや増加傾向にあります。光化学オキシダントは、環境基準を達成していないものの、全国的に他市町と比較しても突出している状況ではありません。

畜産臭気については、住宅地から1 km以内の畜産施設において年3回の臭気測定を実施し、畜産農家に対する啓発を行いました。

#### ●大気汚染常時観測の環境基準達成率

(%)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
二酸化硫黄	100	100	100	100	100
二酸化窒素	100	100	100	100	100
浮遊粒子状物質	100	100	100	100	100
ダイオキシン類	100	100	100	100	100

#### ●大気汚染常時観測結果

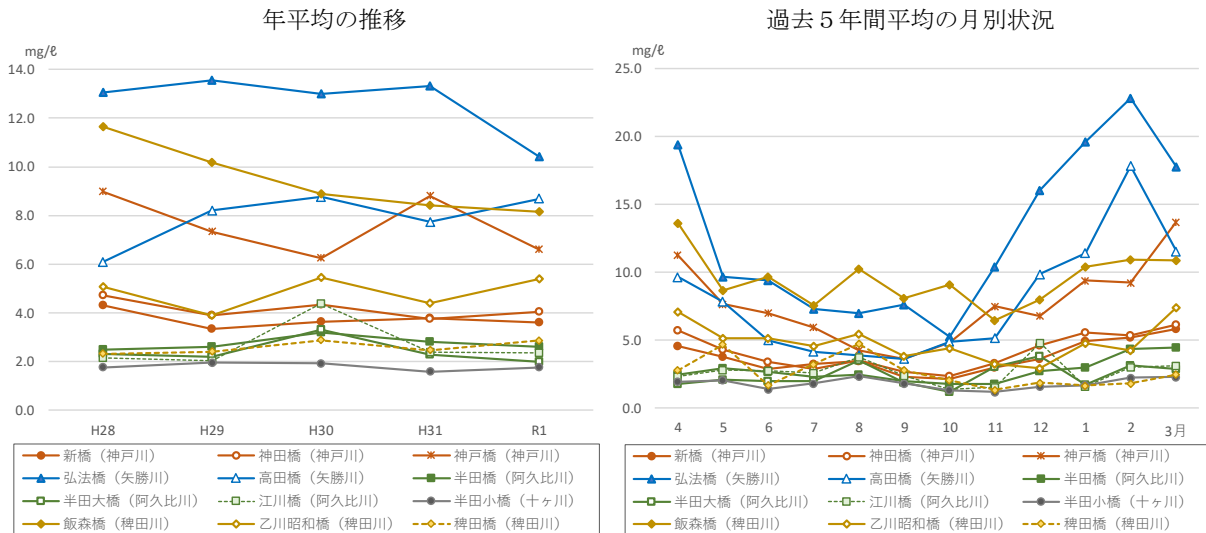


## (2) 水質

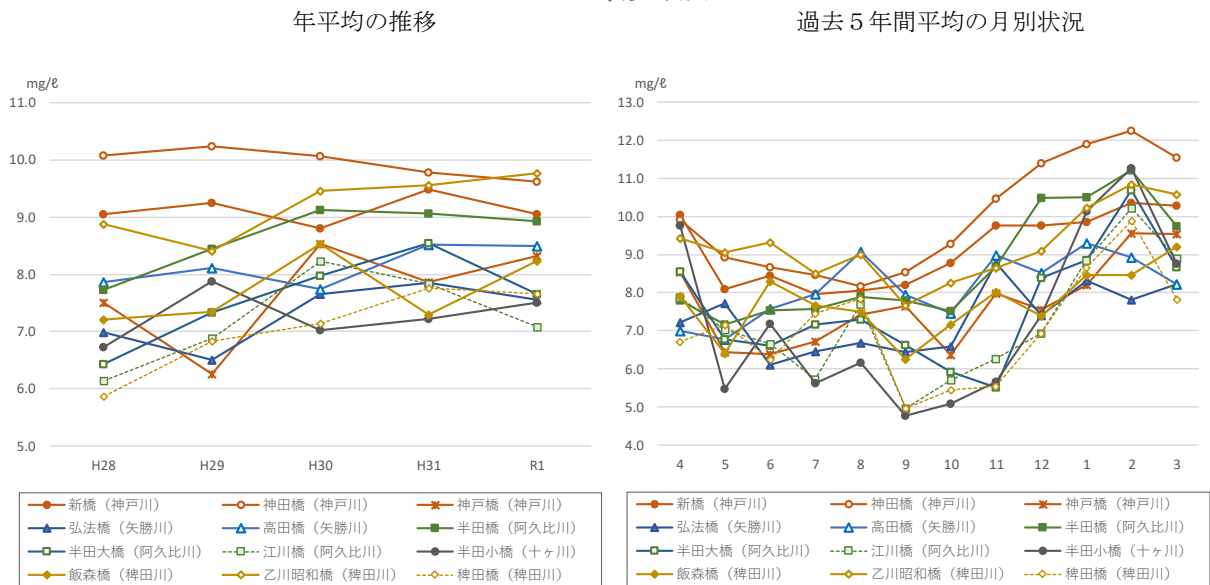
水の汚れの指標となる BOD（生物化学的酸素要求量）は、市内の 5 河川はほぼ横ばいで推移していますが、矢勝川の数値は高いまま推移しています。DO（溶存酸素）は稗田川においてやや悪化傾向にあります。河川においては、いずれも冬季にかけて悪化する傾向にあります。

### ●河川・水域の水質

BODの状況-河川

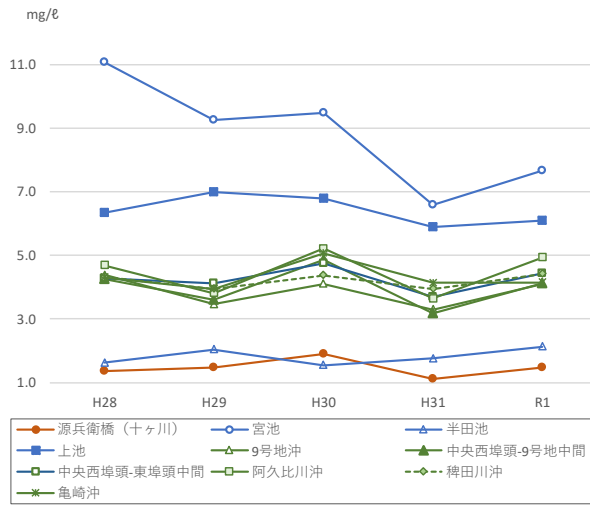


DOの状況-河川

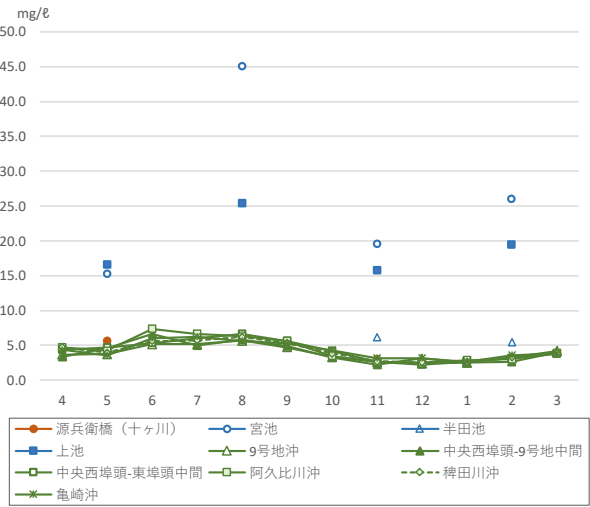


### CODの状況-池沼・海域等

年平均の推移

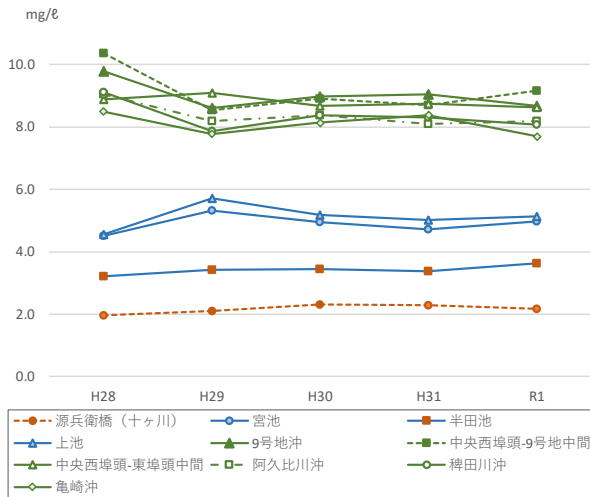


過去5年間平均の月別状況

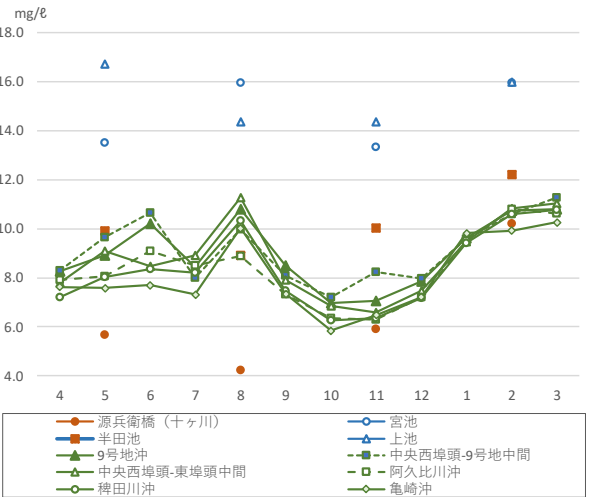


### DOの状況-池沼・海域等

年平均の推移



過去5年間平均の月別状況



●水生生物調査により採取できた種数と生物種

[河川調査における種数の推移]

		阿久比川		稗田川				平地川		矢勝川		神戸川			
		島田橋		昭和橋		庚申橋		平地橋		高田橋		二割橋		小板橋	
		在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種
魚類	H23	6	5	5	3	3	4	3	2	9	3	4	2	9	3
	H25	4	3	5	4	2	3	3	2	3	3	5	2	10	2
	H27	3	4	3	5	2	5	3	2	6	3	6	1	9	4
	H29	4	2	2	3	-	-	-	-	4	2	7	3	7	1
	R1	-	-	-	-	6	2	2	1	2	1	-	-	9	3
その他	H21	4	1	5	2	2	1	1	2	2	1	4	2	6	2
	H27	5	2	3	2	2	1	1	1	5	2	5	1	2	2
	H29	3	0	5	0	-	-	-	-	0	1	6	2	3	1
	R1	-	-	-	-	3	2	4	2	3	1	-	-	6	2
昆虫	H23	5	0	4	0	2	0	2	0	2	0	5	0	2	0
	H25	3	0	3	0	1	0	2	0	2	0	4	0	2	0
	H27	2	0	6	0	3	0	2	0	5	0	2	0	4	0
	H29	2	0	1	0	-	-	-	-	2	0	7	0	5	0
	R1	-	-	-	-	2	0	1	0	5	0	-	-	5	0

[ため池調査における種数の推移]

		親池		中池		吉田池		七本木池		宮池		折戸池	
		在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種	在来種	外来種
魚類	H22	2	3	5	2	3	0	5	1	2	2	5	0
	H24	0	3	1	3	5	0	-	-	1	1	6	0
	H26	-	-	2	2	3	1	1	0	1	2	6	0
	H28	2	1	2	3	3	0	3	0	1	1	4	0
	H30	1	1	2	2	5	0	-	-	-	-	-	-
その他	H22	1	2	5	1	1	2	2	1	1	0	1	2
	H24	0	1	1	2	1	0	-	-	1	2	1	1
	H26	-	-	1	1	1	0	1	1	1	0	1	2
	H28	0	1	1	1	2	1	2	0	1	0	2	1
	H30	0	1	2	1	3	1	-	-	-	-	-	-
昆虫	H22	6	0	5	0	-	-	-	-	-	-	-	-
	H24	2	0	5	0	-	-	-	-	-	-	-	-
	H26	-	-	3	0	2	0	2	-	8	-	7	-
	H28	4	0	4	0	1	0	2	-	4	-	3	-
	H30	4	0	5	0	3	0	-	-	-	-	-	-

[令和元年度調査で観察された生物種（河川4か所）]

	魚類等		昆虫
	在来種	外来種	
稗田川（庚申橋付近）	・モツゴ ・スミウキゴリ ・ウキゴリ ・マハゼ ・ウナギ ・アユ ・モクズガニ ・スジエビ ・ヌマエビ	・カダヤシ ・ブルーギル ・アメリカザリガニ ・ミシシippアカミミガメ	・アメンボ ・イトトンボ類（ヤゴ）
平地川（平地橋付近）	・モツゴ ・スミウキゴリ ・モクズガニ ・クロベンケイガニ ・スジエビ ・モノアラガイ	・カダヤシ ・アメリカザリガニ ・ミシシippアカミミガメ	・アメンボ
矢勝川（でむし広場付近）	・タモロコ ・モツゴ ・モクズガニ ・ヌマエビ ・テナガエビ	・カダヤシ ・アメリカザリガニ	・アメンボ ・イトトンボ類（ヤゴ） ・シオカラトンボ（ヤゴ） ・コオイムシ ・マツモムシ
神戸川（小板橋付近）	・モツゴ ・スミウキゴリ ・ウキゴリ ・マハゼ ・ウナギ ・フナ属 ・チチブ属 ・カマツカ ・メダカ ・モクズガニ ・スジエビ ・ヌマエビ ・テナガエビ ・スッポン ・シジミ	・カダヤシ ・ブルーギル ・アメリカザリガニ ・ミシシippアカミミガメ ・コイ	・アメンボ ・イトトンボ類（ヤゴ） ・シオカラトンボ（ヤゴ） ・ギンヤンマ（ヤゴ） ・コオイムシ

資料：半田市



### (3) 水道

本市の水道水源は長良川河口堰であり、知多浄水場から給水されています。

1人1日当たり平均給水量は平成27年以降はほぼ横ばいとなっていますが、今後、節水機器のさらなる普及などにより減少していくことが予想されます。

#### ●水道の状況

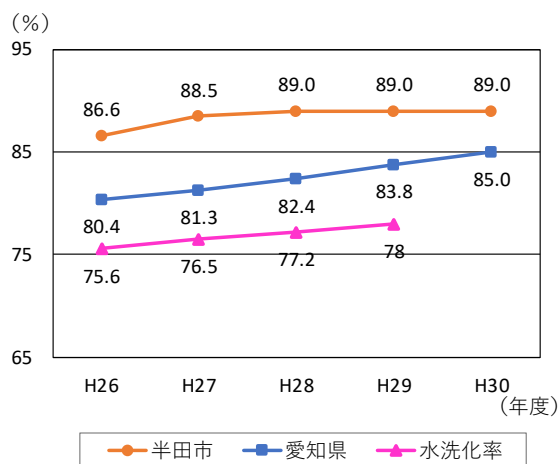
(年度)

	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
給水人口(人)	118,370	117,955	117,993	118,230	118,698
給水戸数(戸)	52,065	52,322	52,885	53,158	53,915
給水量(m <sup>3</sup> )	14,811,140	14,248,223	14,100,927	14,176,312	14,267,196
1日平均給水量(m <sup>3</sup> )	40,579	39,036	38,527	38,839	39,088
1人1日平均給水量(ℓ)	343	331	327	329	329
普及率(%)	99.39	99.38	99.39	99.39	99.4

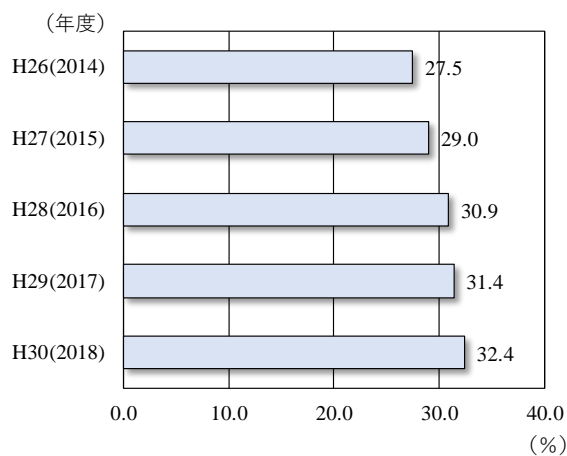
### (4) 下水道

市の下水道普及率は、平成30年度時点で89.0%であり、県の普及率より高くなっています。平成28年度以降横ばいとなっています。下水道整備区域外については、合併浄化槽の設置を推進しており、合併浄化槽率は平成30年度で約32.4%となっています。

#### ●下水道普及率



#### ●合併処理浄化槽率



※下水道普及率=処理区域内人口/総人口×100

※水洗化率=水洗化人口/処理区域内人口×100

(世帯の接続状況をもとに算出)

資料：愛知県、半田市下水道課

※合併浄化槽率=下水道整備区域外合併浄化槽設置基数

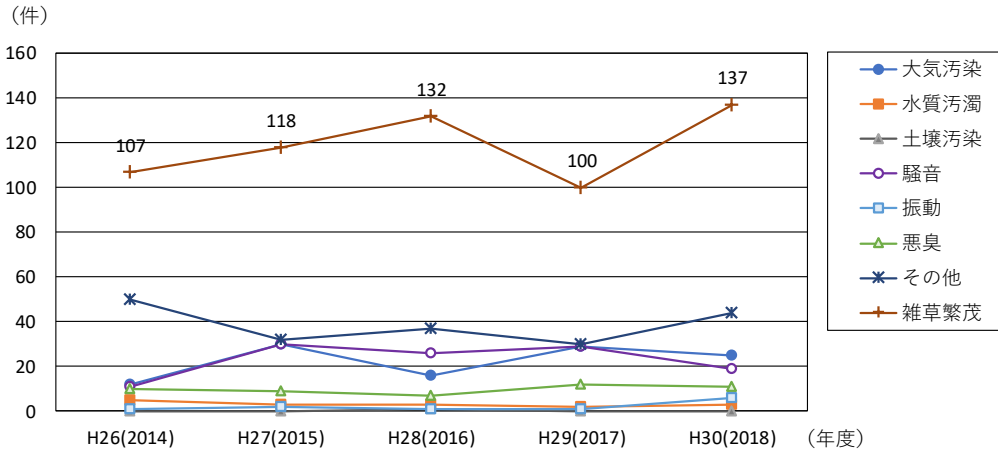
／下水道整備区域外浄化槽設置基数×100

資料：半田市クリーンセンター

### (5) 生活環境に関する苦情相談

苦情件数は、空き地などの雑草繁茂に対する苦情が最も多く、次に大気汚染(ごみ等の屋外燃焼行為)の苦情が多い状況です。雑草繁茂や個人による生活騒音など日常生活への影響に対する苦情相談が増加傾向にあります。

#### ●生活環境に関する相談対応件数



資料：半田市

### 3) 地球環境

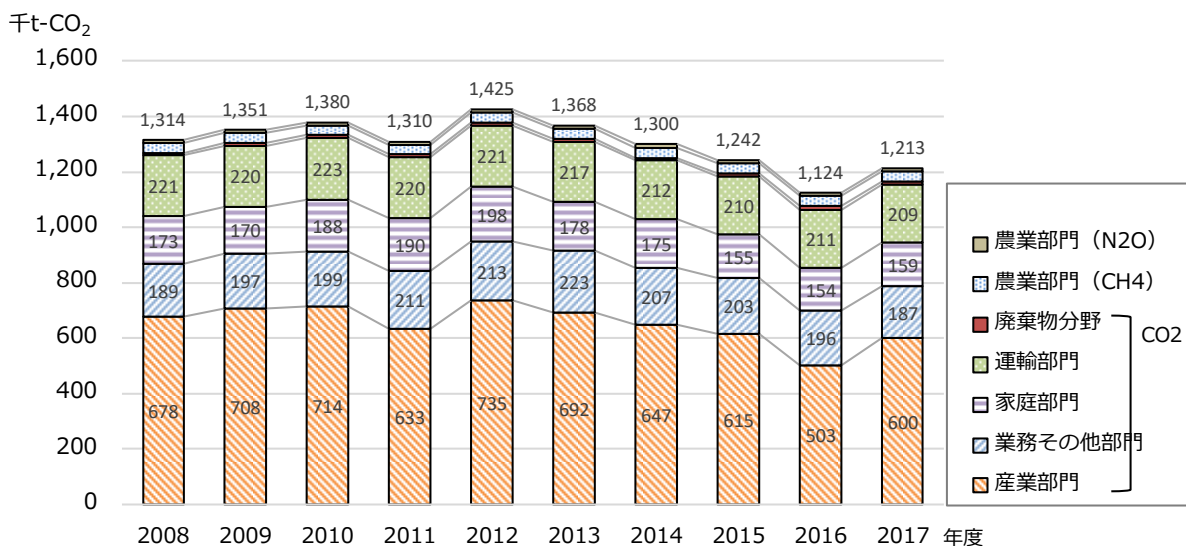
#### (I) 温室効果ガス排出量

平成29年度のCO2排出量は1,213千トンCO2であり、平成24年度をピークに減少傾向にありましたが、平成29年度に再び増加しています。特に産業部門でその傾向が顕著となっています。

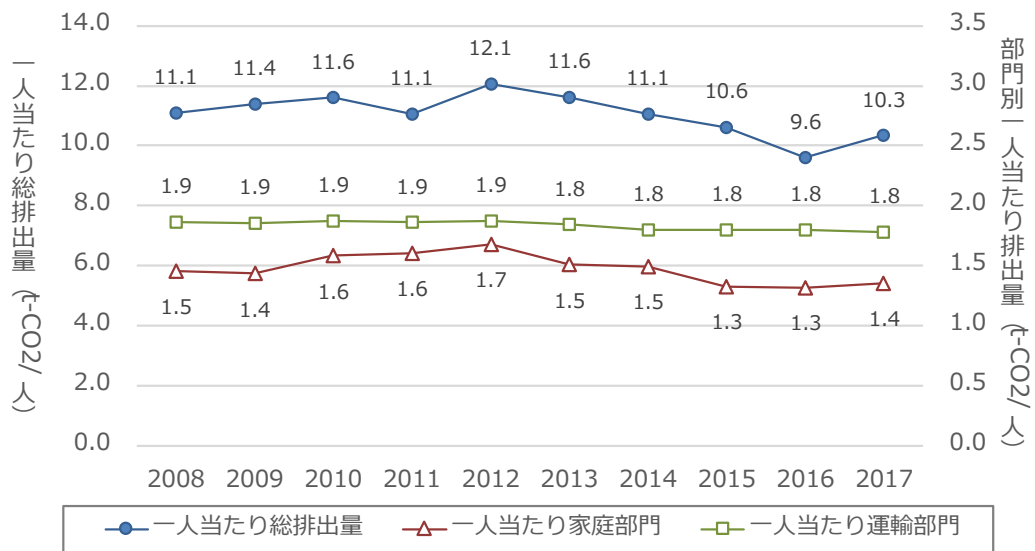
構成比率は、産業部門（50%）、業務その他部門（15%）、家庭部門（13%）、運輸部門（17%）、廃棄物部門（1%）、農業部門（4%）となっており、産業部門が半数を占めています。

一人当たり総排出量は、平成29年に10.3トンCO2となっており、平成24年度以降減少していましたが、平成29年度に増加しました。家庭部門も同様の傾向にありますが、運輸部門は横ばいとなっています。

#### ●部門分野別 温室効果ガス排出量の推移



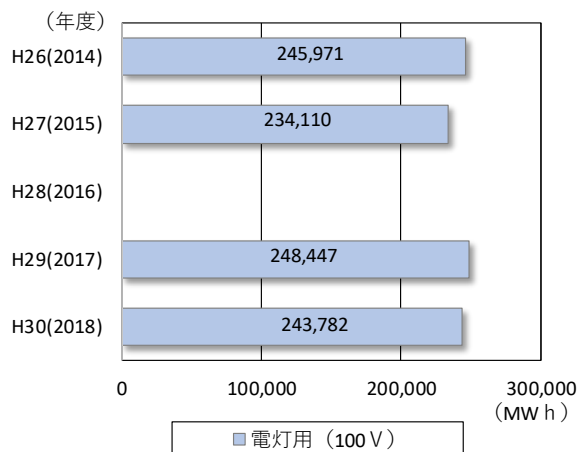
#### ●一人当たり排出量の推移（総排出量、家庭部門、運輸部門）



## (2) エネルギー

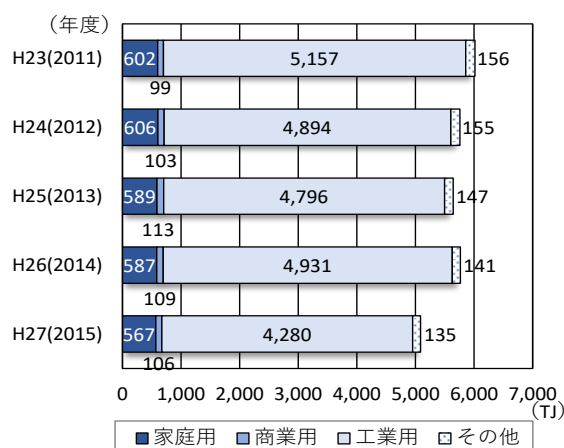
家庭用電力（電灯用 100V）に大きな変化はみられず、都市ガスの使用量は年々減少しています。ただし平成 28 年度以降は、電力・ガスの自由化により、市内のエネルギー使用量を正確に把握することが困難となっています。

### ●電気使用量



※H28 年度は電力自由化に伴いデータ提供が得られず  
資料：中部電力

### ●都市ガス使用量



資料：愛知県統計年鑑

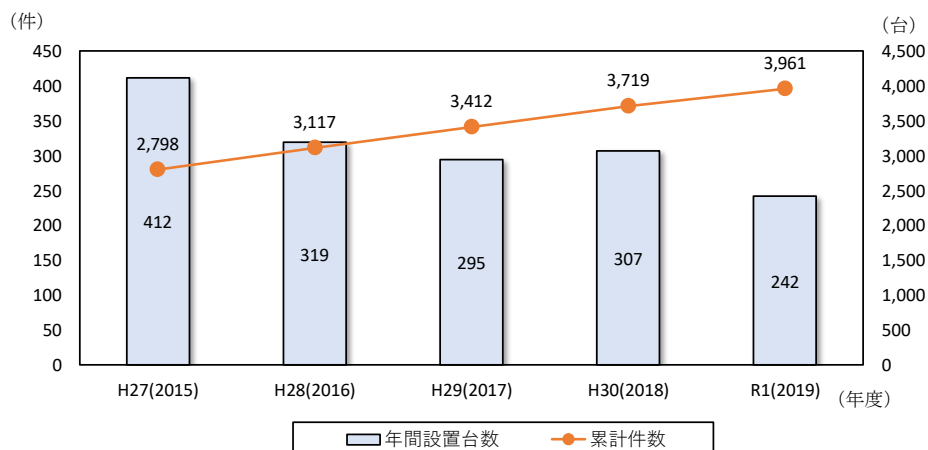
## (3) 再生可能エネルギー

住宅用の太陽光発電システムの設置台数（中部電力による売電件数）は、令和元年度時点で累計 3,961 件であり、固定価格買取制度の適用縮小に伴い、設置件数が減少傾向にあります。

固定価格買取制度による再生可能エネルギーの導入状況を見ると、10kW 以上の太陽光発電設備は約 900 件、約 50,000kW あります。市の一般廃棄物最終処分場建設予定地では、900kW の太陽光発電設備をリース方式で設置し全量売電しており、非常時は電力供給できるようになっています。また、民間事業者による木質系の大規模バイオマス発電施設が 2 件稼働しています。

さらに、「半田市バイオマス産業都市構想」において、畜産ふん尿等を利用したバイオガス発電とその排熱・排ガスを利用した植物工場を中心とした 4 つの事業化プロジェクトにより、「循環型社会の形成」「農業の振興」「畜産臭気の低減」を目指しており、2021 年度にバイオガス発電施設が稼働予定です。

●住宅用太陽光発電システムの設置台数（中部電力による売電件数）



資料：中部電力

●本市が設置した市内の主な再生可能エネルギーの導入状況

種類	施設名	導入量	導入年度	備考
太陽光発電	福祉文化会館	10kw	H27 年度	蓄電池 10kw
	上池公民館	20kw	H27 年度	
	半田市役所	50kw	H26 年度	蓄電池 30kw
	クリーンセンター太陽光発電所	900kw	H26 年度	
	有脇小学校	20kw	H25 年度	
	半田中学校	20kw	H25 年度	
	乙川中学校	20kw	H24 年度	
	亀崎中学校	20kw	H23 年度	
	花園小学校	20kw	H22 年度	
太陽熱利用	半田病院	43 m <sup>3</sup>	S57 年度	

●固定価格買取制度における再生可能エネルギー発電設備の導入実績

	(件、kw)	太陽光発電設備		風力 発電 設備	水力 発電 設備	地熱 発電 設備	バイオマス発電設備					合計
		10kW 未満	10kW 以上				メタン発 酵ガス	未利用 木質	一般木 質・農作 物残さ	建設廃 材	一般廃 棄物・木 質以外	
件数	新規分	1,942	877	0	0	0	0	0	1	1	0	2,821
	移行認定分	1,387	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1,400
導入量	新規分	9,076	49,192	0	0	0	0	0	74,250	50,000	0	182,518
	移行認定分	5,491	162	0	0	0	0	0	0	0	0	5,653

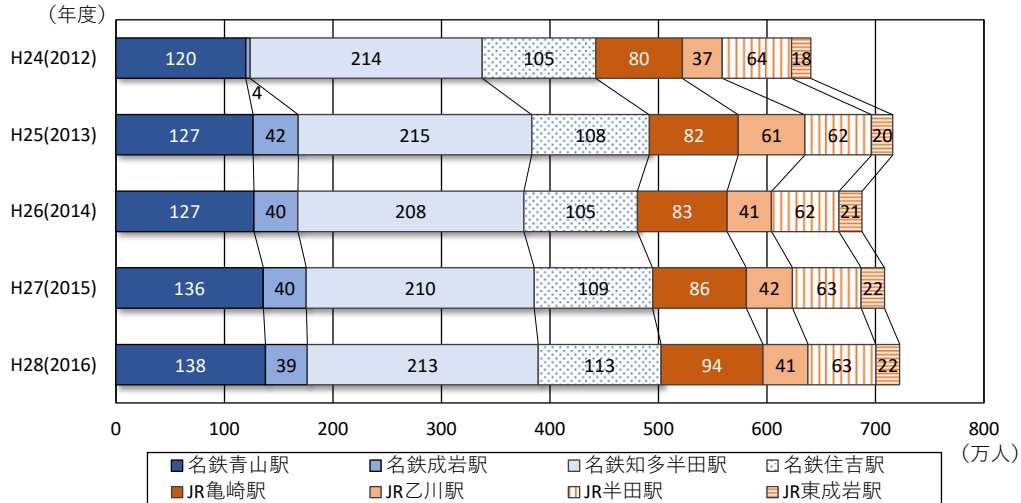
資料：固定価格買取制度 情報公表用ウェブサイト

#### (4) 交通

##### ① 鉄道・バス

市内の名鉄各駅及び JR 各駅の年間利用者数は全体として増加傾向にあり、特に名鉄青山駅、名鉄住吉駅、JR 亀崎駅、JR 東成岩駅の利用者数が増加しています。

##### ●公共交通利用者数（JR・名鉄）



※各駅の 1 日当たりの平均乗車数に 365 日をかけて年間利用者数とした  
資料：知多半島の統計（東海旅客鉄道(株)、名古屋鉄道(株)）

市内には、計 5 路線のバスが運営・運行されています。令和 2（2020）年 4 月からはバス経路変更と遅延解消のための全線ダイヤ変更を行うとともに、WEB にアクセスするだけでバスの運行状況が分かる「バスロケーションシステム」の本格運用を開始しています。

##### ●市内のバス路線

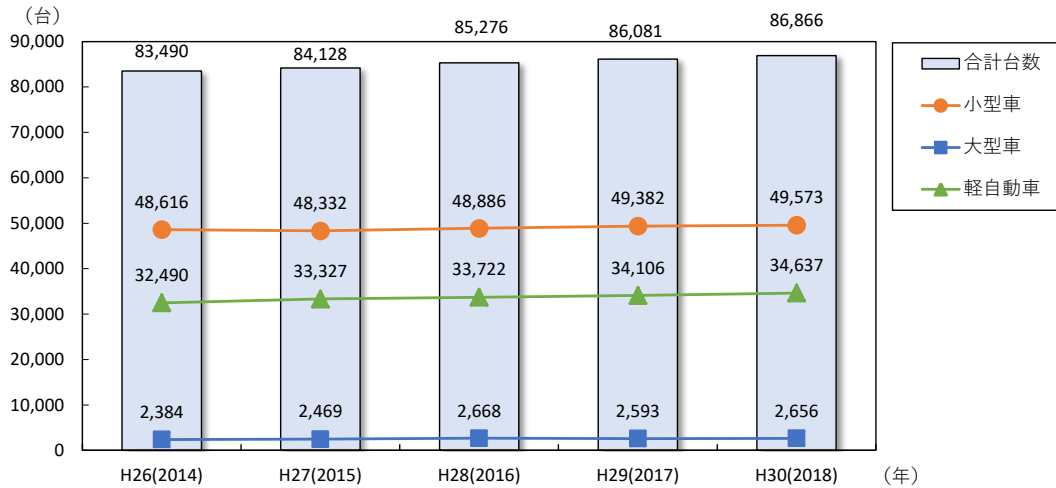
路線種別	路線名称	運営者	運行者
基幹路線 バス	半田北部線	知多乗合(株)	知多乗合(株)
	半田・常滑線		
地区路線 バスごん くる	亀崎・有脇線（亀有バス）	半田市	
	半田中央線（南吉バス）		
	青山・成岩線（青成バス）		



## ② 自動車

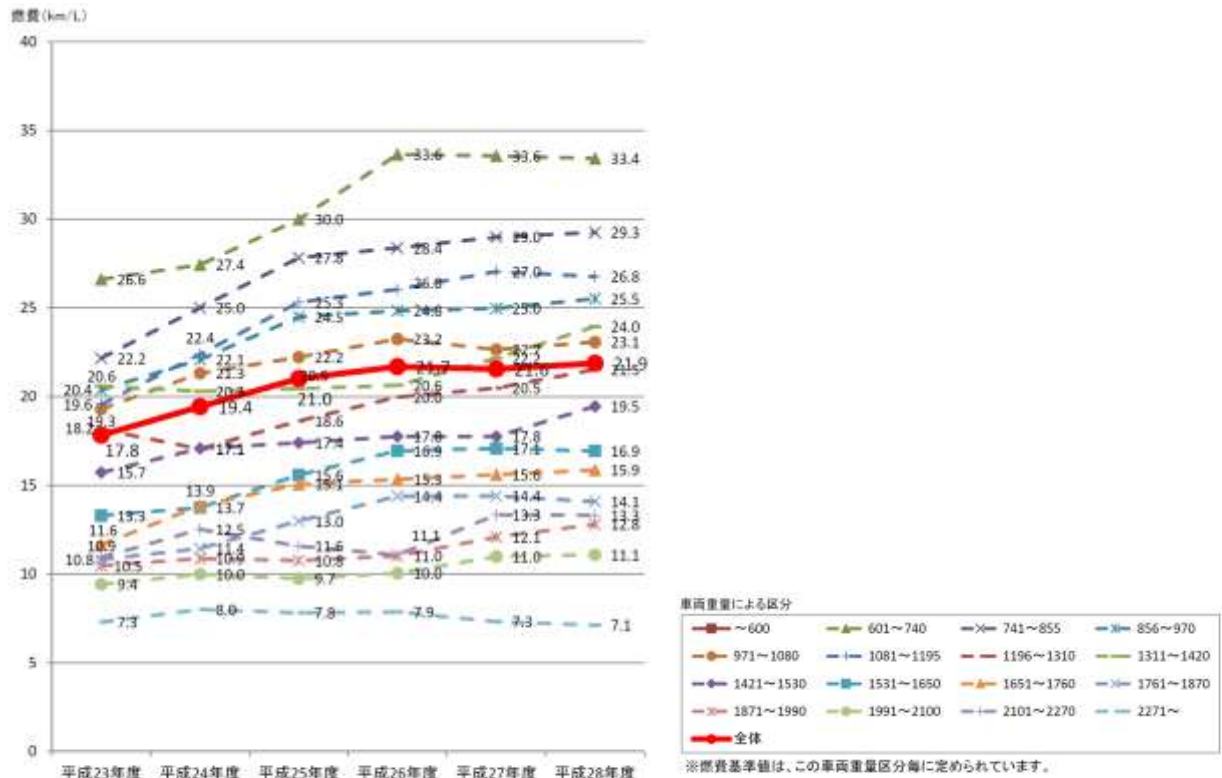
市内の自動車登録台数は、平成26年から平成30年にかけて増加傾向にあります。車種別では、一般の乗用車にあたる小型車、軽乗用車が増加傾向にあり、世帯増加にあわせて自動車保有台数も増加傾向にあることがわかります。

### ●自動車登録台数



資料：愛知県統計年鑑

### ●ガソリン乗用車の JC08 モード燃費平均値の推移 (全国)



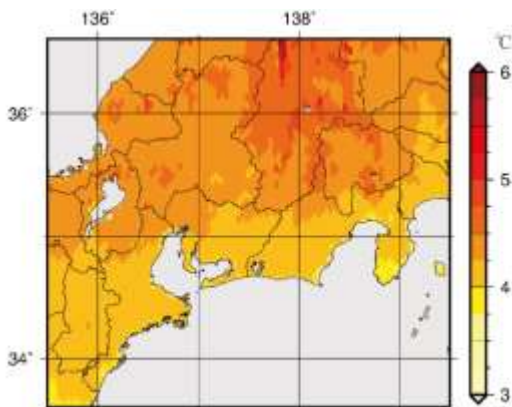
資料：国土交通省「自動車燃費一覧」

## (5) 将来の気候変化

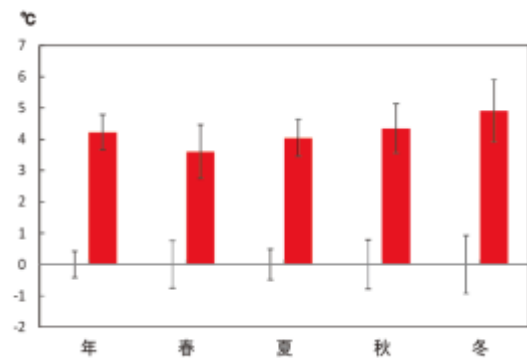
愛知県における将来の気候変化について、現在気候(1980～1999年)と将来気候(2076～2095年)の差の予測をみると、平均気温(愛知県内平均)は約4℃上昇すると予測されており、特に冬に上昇幅が大きい傾向がみられます。

また、県内平均による1時間降水量50mm以上の発生回数と無降水日数の将来気候における変化の予測をみると、どちらも年間の回数や日数は、将来気候において増加すると予測されています。

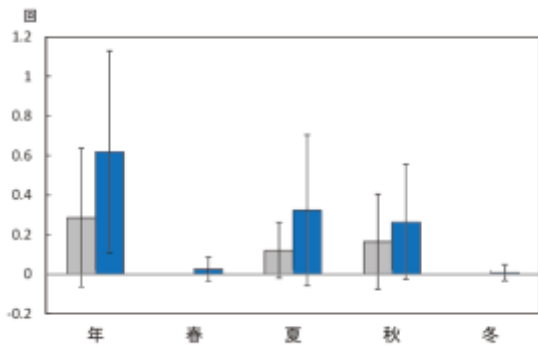
●東海地方の年平均気温の将来予測(将来気候の現在気候との差)



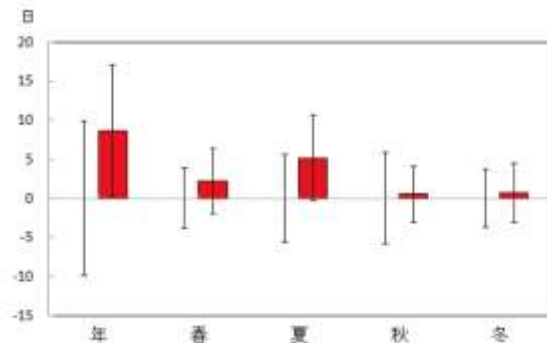
●愛知県の平均気温の将来予測



●愛知県の1時間降水量50mm以上回数の将来変化

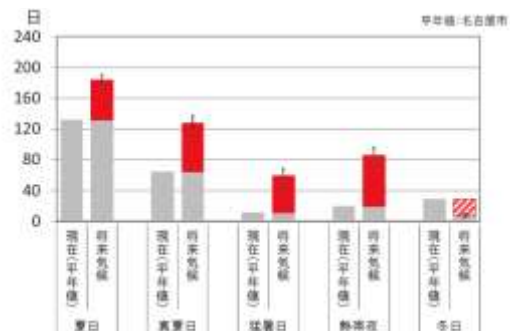


●愛知県の無降水日数の将来予測



### 参考) 名古屋市の階級別日数の将来予測

名古屋市における階級別日数の将来変化量をみると、猛暑日が年間40日以上増加し、真夏日、夏日、熱帯夜も増加、冬日は減少すると予測されています。



※ここでは「地球温暖化予測情報第9巻」の予測結果を地方別・都県別に領域平均したもの。予測結果は、地域気候モデルで再現した現在気候(1980～1999年)と将来気候(2076～2095年)とを比較した変化を示す。なお、「第9巻」で計算に用いた温室効果ガスの将来の排出シナリオは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第5次評価報告書で用いられた中で、現在以上の厳しい地球温暖化対策をとらなかった場合のRCP8.5シナリオ(温室効果ガス濃度の増加を最も多く想定)である。

資料：いずれも東京管区気象台「気候変化レポート2018－関東甲信・北陸・東海地方－」

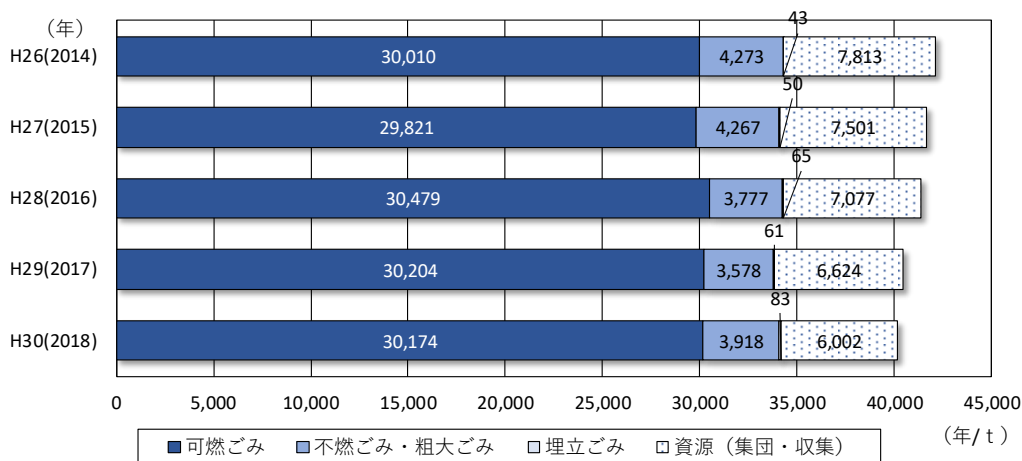


## 4) 廃棄物・リサイクル

### (1) ごみ

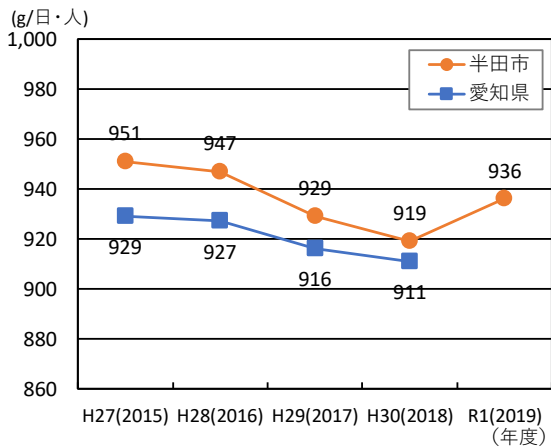
ごみ排出量は、全体的に年々減少傾向にあります。資源ごみの減少による影響が大きく、それ以外のごみ種についてはほぼ横ばいとなっています。市民1人1日当たりのごみ排出量をみると、県平均よりも多い状況ですが、県平均との差が小さくなっています。年々減少傾向にありましたが、令和元年度に大きく増加しました。ごみのうち家庭系可燃ごみはほぼ横ばいですが、事業系可燃ごみはやや増加傾向にあります。

#### ●ごみ排出量



資料：半田市クリーンセンター

#### ●市民1人1日当たりのごみ排出量



資料：半田市クリーンセンター、  
「一般廃棄物処理事業実態調査」(愛知県)

#### ●家庭系・事業系ごみ量の推移(搬入及び処分量)

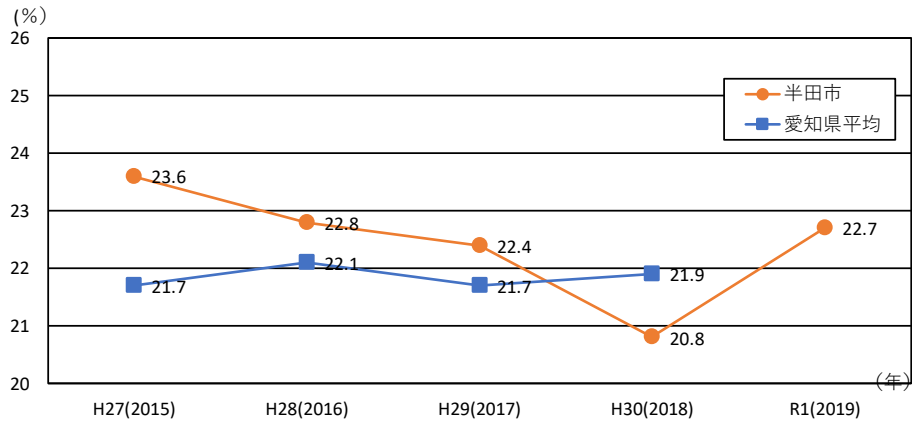


資料：半田市クリーンセンター

## (2) リサイクル

リサイクル率は、平成26年度の23.6%から平成30年度には20.8%と減少傾向にありましたが、令和元年度に大きく増加しました。資源回収、施設回収ともに新聞紙や雑紙、段ボールなどの回収量が減少しており、生活スタイルの変化や民間による紙類資源回収による影響などが考えられます。

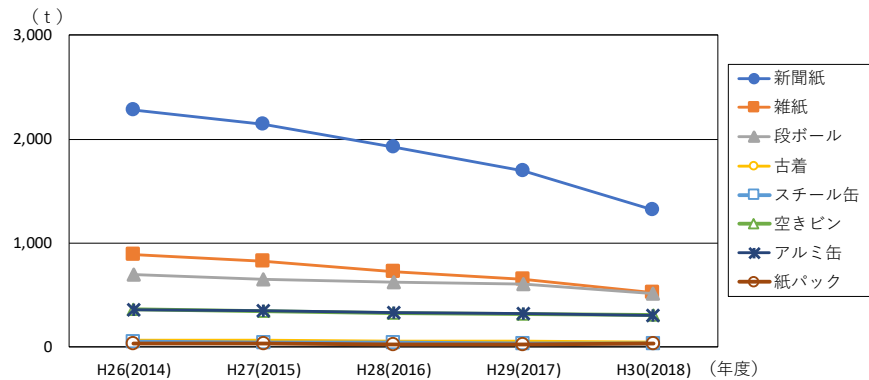
### ●リサイクル率の推移



資料：半田市クリーンセンター

### ●リサイクルの状況

		H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
収集回収	プラスチック製容器包装	1,228	1,287	1,238	1,218	1,205
	ペットボトル	331	324	315	335	373
	紙製容器包装	645	593	578	529	496
資源回収	新聞紙	2,280	2,143	1,928	1,699	1,317
	雑紙	891	821	725	655	523
	段ボール	695	651	624	603	517
	古着	68	67	59	60	51
	スチール缶	52	45	42	38	35
	空きビン	360	348	330	318	305
	アルミ缶	360	348	330	318	305
	紙パック	35	31	28	27	30
施設回収	紙類（新聞紙・雑誌・ダンボール・紙製等）	478	415	361	331	297
	鉄くず	472	475	517	492	540



資料：半田市クリーンセンター

## 5) 自然環境

### (I) 自然環境の概要

市内の代表的な自然環境としては、市域西部の丘陵地や水田などの農耕地、愛知用水から取水されるため池群などがあります。また、市街地内には、樹林地、多くの社寺、雁宿公園や任坊山公園などの公園に緑が残されており、阿久比川や矢勝川、神戸川などの河川も生物にとって重要な生息環境となっています。これらの身近な環境を知り考えてもらうため、平成31年に「はんだ水辺マップ」を作成しています。

#### ●半田市内の主な河川・ため池

##### 主な河川

No	名称
1	阿久比川
2	神戸川
3	矢勝川
4	稗田川
5	十ヶ川

##### 主なため池

1	八助谷池	12	椎ノ木大池	23	荻谷口池	34	濁池
2	伊兵池	13	中池	24	康衛池	35	大洞池
3	三郷池	14	東の池	25	西ノ宮池	36	新田池
4	広脇池	15	長成池	26	弁天池	37	笹池
5	山神池	16	西午ヶ池	27	新居池	38	上定光池
6	池田大池	17	東午ヶ池	28	上苗代池	39	横倉池
7	折戸池	18	蝮ヶ池	29	新池	40	杵廻間池
8	吉田池	19	浜池	30	葭池	41	南廻間池
9	松堀池	20	親池	31	横川池	42	広の池
10	古池	21	宮池	32	七本木池		
11	大曾池	22	宮池	33	上池		



## (2) 動植物

### ① 動物

愛知県レッドデータリスト（2015）によると、半田市及びその周辺（レッドデータリストにおいて半田市を含むメッシュ内）には、重要な種として、哺乳類1種、両生類が2種、昆虫類が2種、クモ類が4種生息する可能性があるとしてされています。

また、半田市を含む知多北部地域では、特定外来生物であるヌートリア、アライグマ、カミツキガメ、ウシガエル、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)、セアカゴケグモが確認されています。

#### ●半田市及びその周辺の重要な種

哺乳類	ハタネズミ(NT)
両生類	カスミサンショウウオ(EN)、ナゴヤダルマガエル(VU)
昆虫類	ウラギンスジヒョウモン(NT)、シマゲンゴロウ(NT)
クモ類	オビジガバチグモ(VU)、ミナミコモリグモ(VU)、ゲホウグモ(NT)、コガネグモ NT(NT)

※絶滅危惧 I B 類 (EN)：近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの、絶滅危惧 II 類 (VU)：絶滅の危険が増大している種、準絶滅危惧 (NT)：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

資料：レッドデータブックあいち 2020 をもとに整理

#### ●知多北部地域の特定外来生物

哺乳類	ヌートリア、アライグマ
爬虫類	カミツキガメ
両生類	ウシガエル
魚類	カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス、ブラックバス (オオクチバス)
クモ類	セアカゴケグモ

資料：STOP!あいちの外来種 移入種対策ハンドブックホームページ

### ② 植物

市域西部の丘陵地には、コナラークリ群落といった代償植生やクロマツ植林などの植林地植生が点在してみられます。また、自然植生のアラカン群落が八幡神社周辺（神代町）、サカキーコジイ群集が成石神社周辺にみられます。

愛知県レッドデータリスト（2015）によると、半田市及びその周辺（レッドデータリストにおいて半田市を含むメッシュ内）には、35科70種の重要な種が生育するとされています。

また、半田市を含む知多北部地域では、特定外来生物であるアレチウリ、オオフサモ、パロットフェザー（オオフサモ）、ナルトサワギク、コウベギク（ナルトサワギク）、ヒガタアシが確認されています。

●半田市及びその周辺の重要な種

アカウキクサ	1
アカザ	1
アカバナ	1
アブラナ	1
アヤメ	1
アリノトウグサ	1
イネ	4
イバラモ	2
オトギリソウ	1
オモダカ	1
ガガイモ	1
カヤツリグサ	8

キキョウ	1
キク	6
コバノイシカグマ	1
ゴマノハグサ	5
シソ	3
シバナ	1
スイレン	2
タデ	1
タヌキモ	5
トチカガミ	2
ナデシコ	1
バラ	2

ヒルムシロ	4
ホシクサ	1
マメ	2
ミズニラ	1
ミツガシワ	1
ムラサキ	1
モウセンゴケ	2
ヤナギ	1
ユリ	1
ラン	2
リンドウ	1

●知多北部地域の特定外来生物

ウリ	アレチウリ
アリノトウグサ	オオフサモ
アリノトウグサ	パロットフェザー (オオフサモ)
キク	ナルトサワギク
キク	コウベギク (ナルトサワギク)
イネ	ヒガタアシ

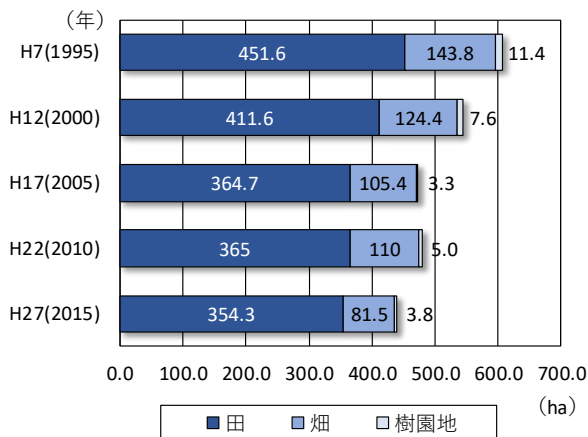
資料：STOP!あいちの外来種 移入種対策ハンドブックホームページ

③ 農地

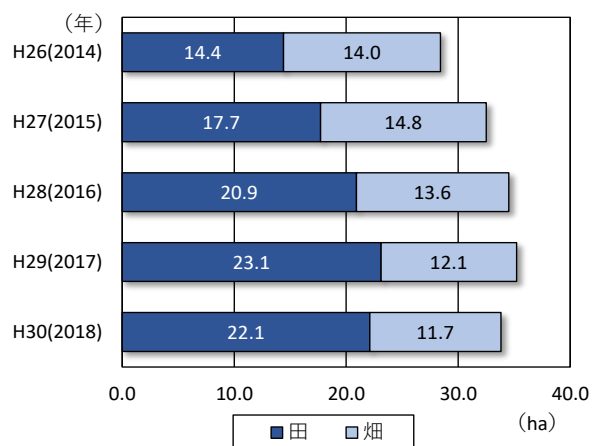
経営耕地面積は減少傾向にあり、平成 27 年には平成 7 年の 72%に減少しています。内訳では、田が 78.5%、畑が 56.7%、樹園地が 33.3%に減少しています。

耕作放棄地は、農家の高齢化や離農が進み、近年増加傾向にありましたが、平成 30 年度にはやや減少し、田 22.1ha、畑 11.7ha となっています。

●経営耕地面積



●耕作放棄地



資料：半田市経済課

## 6) 快適環境

### (1) 歴史的・文化的環境

市の歴史的・文化的環境として、「山車」「蔵」「南吉」「赤レンガ」など歴史と文化に溢れる多くの観光資源があります。半田運河周辺は醸造業に代表される黒板囲いの製造蔵が今も残っています。新美南吉「ごんぎつね」に登場する矢勝川沿いの堤には、毎年 300 万本を超す彼岸花が咲き誇ります。また、国指定の重要文化財として旧中埜家住宅、登録有形文化財として小栗家住宅、半田赤レンガ建物、愛知県立半田商業高等学校正門門柱があり、平成 18 年には亀崎潮干祭の山車行事が国の重要無形民俗文化財に指定され、その後平成 28 年にはユネスコ無形文化遺産に登録されています。半田赤レンガ建物は、明治 31 年に丸三麦酒(株)のビール工場として誕生したもので、現在は常時公開施設として活用されています。

### (2) 公園・緑地

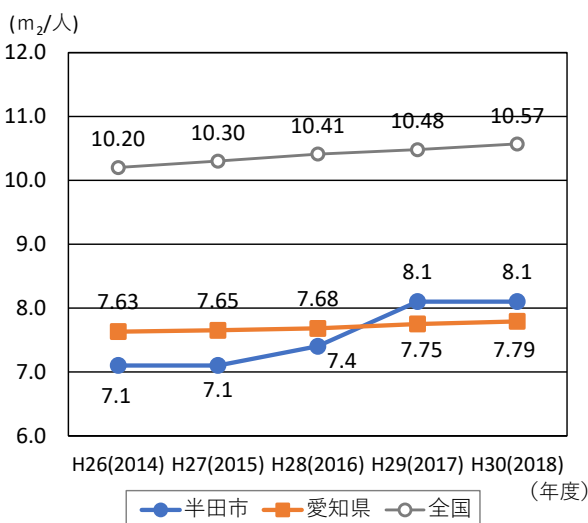
市内の公園・緑地は、半田運動公園、雁宿公園など 125 箇所（街園、県管理の緑地含む）、面積は 102.78ha となっています。市民 1 人あたりの公園・緑地面積は、平成 30 年度に 8.1m<sup>2</sup> であり、増加傾向にあります。全国平均よりは低い水準となっています。

#### ●市内の公園・緑地の箇所・面積

公園・緑地の種類	個所数	面積 (ha)
運動公園	1	26.7
地区公園	5	42.86
近隣公園	7	10.99
街区公園	63	14.01
街園	42	1.27
都市緑地	6	6.65
その他	1	0.3
	125	102.78

運動公園：主として運動を目的とした公園で面積 15～75ha を標準として配置。  
 地区公園：主として徒歩圏内に居住する者の利用を目的とした公園で面積 4ha を標準として配置。  
 近隣公園：主として近隣に居住する者の利用を目的とした公園で面積 2ha を標準として配置。  
 街区公園：もっぱら街区に居住するものの利用を目的とした公園で面積 0.25ha を標準として配置。  
 街園：小さな空き地を利用して木や花壇、あるいは噴水など配した小さな憩いの場。  
 都市緑地：主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地。1 か所あたり面積 0.1ha 以上を標準として配置。

#### ●1人あたりの都市公園・緑地面積



## 7) 参加・協働

### (1) 環境学習

環境学習出前講座や市内小学区での学校・地域連携環境学習推進事業や稲作・酪農体験、はんだエコ探検ツアーなどの環境学習を実施しました。また、子供たちの環境学習及び啓発活動の一環として、市内小中学校の児童及び生徒を対象に環境保全ポスターコンクールを実施しています。また、平成 30 年度には行政や環境保全団体が実施する講座やイベントをまとめた情報誌を作成しました。

### (2) 環境保全活動

環境保全活動の活性化・維持のため、市内外で活動している保全団体の活動支援等を行っており、令和元（2019）年 9 月現在、9 団体が登録しています。

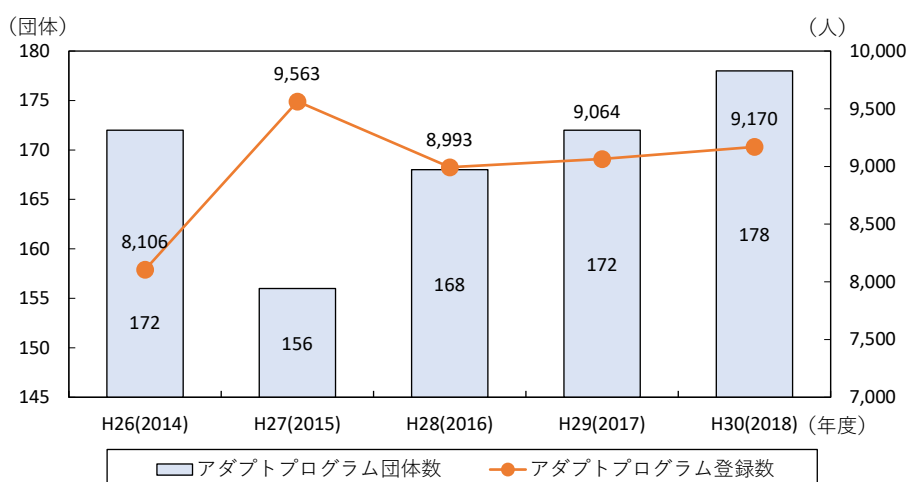
また美しく住みよいまちの環境づくりの基盤を築くため、市民が公共施設の里親になり、ボランティアで公共施設の管理と美化活動を行うアダプトプログラム（クリーンボランティア）を実施しており、登録者数は平成 30 年度末で 178 団体、9,170 人と平成 28 年度以降着実に増加しています。

平成 19 年からは有脇地区内の 5 つのため池で、「有脇の農地・水・緑を守る会」のひとつの活動としてかいどり（池干し）活動を毎年実施しており、ため池内の魚類生態調査、外来種の調査と駆除、藻の駆除と清掃などを行っています。

#### ●登録している市内の環境保全・活動団体

矢勝川の彼岸花を守る会、板山竹炭研究会、半田こどもエコクラブ、やなべエコクラブ、みずほ環境保護クラブ、花いち会、半田ひまわりの会、稗田川をきれいにする会、乙北ため池クリーンの会

#### ●アダプトプログラム団体数・登録者数



資料：半田市

## 8) 本市の地域経済循環分析

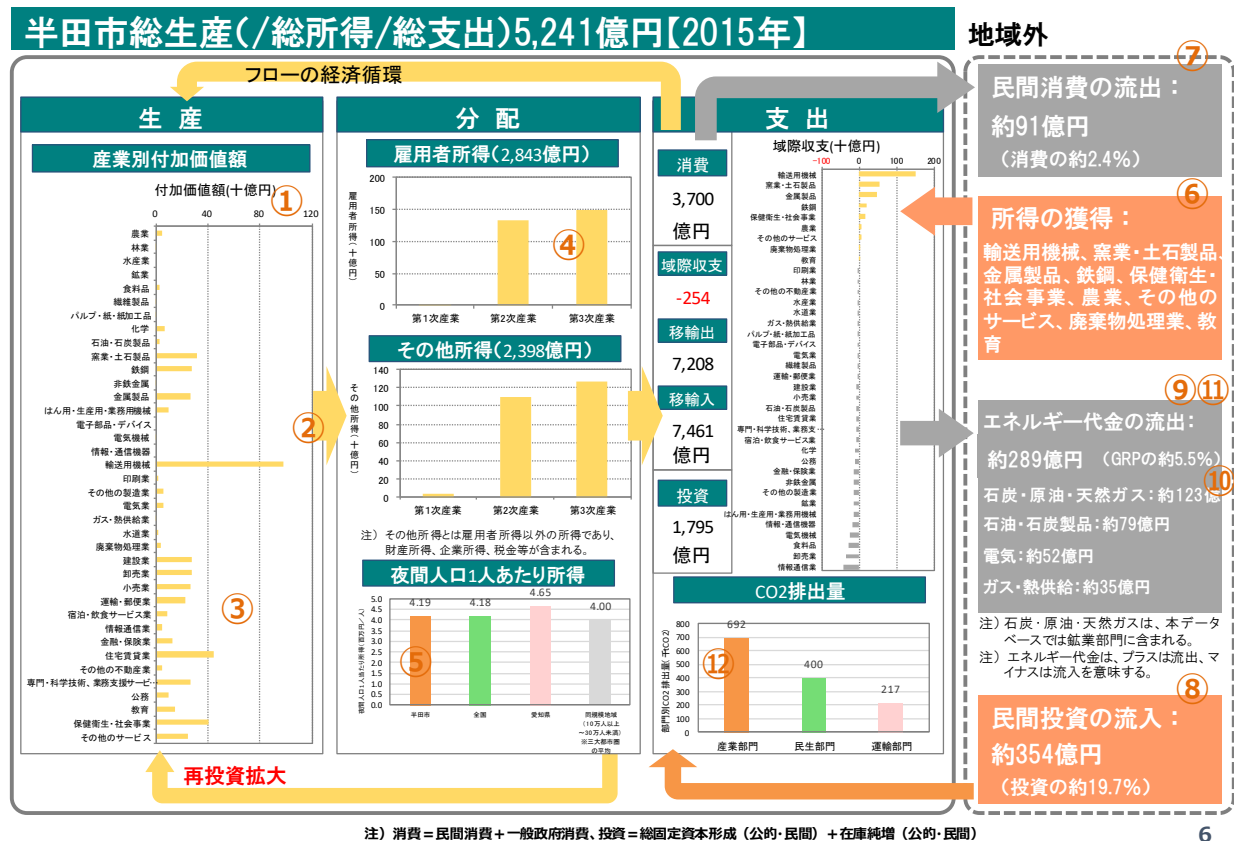
### (1) 地域経済循環分析について

地域経済循環分析は、既存の統計データをベースに、地域の所得(お金)の流れを生産、分配、支出(消費、投資等)の三面で「見える化」することで、地域経済の全体像と地域からの所得の流入流出を把握することを可能にしたものです。所得の循環構造を把握することで、「地域に稼ぐ力があるか?」「地域住民の所得がいくらか?」「地域からどの段階で所得がどの程度漏れているか?」「地域の産業構造は?」「地域からエネルギー代金の流出はどの程度か?」などの地域の経済の特徴(長所・短所)を分析することが可能になります。

ここでは、環境省が公開している「地域経済循環分析ツール」を用いて、本市の特徴、及び近隣市との比較について、分析を行いました。

### (2) 本市の基本データ (2015年データによる分析結果)

本市における地域経済循環分析の結果は、以下のとおりとなりました。





	地域の特徴	分析内容
生産	①半田市では、輸送用機械が最も付加価値を稼いでいる産業である。 ②製造業では、輸送用機械が最も付加価値を稼いでおり、次いで窯業・土石製品、鉄鋼が付加価値を稼いでいる産業である。 ③第3次産業では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでおり、次いで保健衛生・社会事業、卸売業が付加価値を稼いでいる産業である。	■ 域内の事業所が1年間で域内でどれだけ付加価値を稼いだか ■ 付加価値とは、売上から原材料を除いた売上総利益である
分配	④半田市では、第3次産業の雇用者所得への分配が最も大きい。 ⑤半田市の夜間人口1人当たりの所得は4.19百万円/人であり、全国平均と比較して高い水準である。	■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か
支出	⑥半田市では、輸送用機械、窯業・土石製品、金属製品が域外から所得を稼いでいる。 ⑦消費が域外に流出しており、その規模は地域住民の消費額の1割未満である。 ⑧投資は域内に流入しており、その規模は地域住民・事業所の投資額の2割程度である。	■ 域内の産業で、域外から所得を稼いでいる産業は何か ■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か
エネルギー・CO2	⑨半田市では、エネルギー代金が289億円域外に流出しており、その規模はGRPの約5.5%である。 ⑩エネルギー代金の流出では、石炭・原油・天然ガスの流出額が最も多く、次いで石油・石炭製品の流出額が多い。 ⑪半田市の再生可能エネルギーのポテンシャルは、地域で使用しているエネルギーの約0.02倍である。 ⑫半田市のCO2排出量は、産業、民生、運輸部門のうち産業部門が最も多く、692千tCO2である。夜間人口1人当たりのCO2排出量は22.41tCO2/人であり、全国平均と比較して高い水準である。	■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか ■ 域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか ■ CO2がどの部門からどれだけ排出されているか

※再生可能エネルギーのポテンシャルには、環境省「平成28年度再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報の整備・公開等及び再生可能エネルギー設備導入に係る実績調査に関する委託業務報告書」における太陽光(導入ポテンシャルL1)、陸上風力、中小水力(河川部)、地熱(蒸気フラッシュ/基本150以上、バイナリー/基本120~150)に、別途推計した洋上風力を加算したものをを用いている。

### (3) 他市との比較から見る本市の特徴

#### ① 資金の流出・流入について

本市は買物や観光等で消費が91億円流出しており、これは民間消費全体の約2.4%を占めています。流出額の割合は、東海市(19.8%)や知多市(46.1%)に比べると小さくなっています。

また本市では、輸送用機械、窯業・土石製品、金属製品などの分野で域外から所得を大きく獲得しています。近隣市では、大府市では輸送用機械、東海市では鉄鋼、知多市では石油・石炭製品で所得を獲得しています。

一方で、情報通信業、卸売業、食料品、電気機械などの分野で資金が流出しており、これは近隣市でも同様の傾向となっています。

#### ② エネルギーについて

本市のエネルギー代金の流出は289億円(GRPの5.5%)で、内訳をみると石油・原油・天然ガス(123億円)、石油・石炭製品(79億円)等の割合が大きくなっています。近隣市のエネルギー代金の流出額がGRPに占める割合を見ると、東海市34.2%、知多市で33.6%と域外への流出が大きく、大府市は4.9%と半田市とほぼ同様の傾向となっています。

本市の再生可能エネルギーのポテンシャルは、地域で使用しているエネルギーの約0.02倍となっており、近隣市においても、東海市0.00倍、大府市及び知多市で0.02倍とほぼ同様の傾向となっています。

### ④ 産業について

前述のように、半田市では製造業の分野で域外から資金を獲得しており、産業別生産額を見ても、輸送用機械（3,854億円）、鉄鋼（859億円）といった製造業等が上位になっています。

また、農業（125億円）が近隣市と比べて大きいことも特徴となっています。

<近隣の同規模自治体との比較（平成27（2015）年データ）>

	半田市	東海市	大府市	知多市
人口	116,908人	111,944人	89,157人	84,617人
従業員数	60,316人	58,686人	49,157人	22,606人
総生産(付加価値)	5,241億円	8,036億円	3,948億円	4,654億円
民間消費の流出	91億円 (消費の約2.4%)	681億円 (消費の約19.8%)	222億円 (消費の約7.9%)	897億円 (消費の約46.1%)
エネルギー代金流入出	289億円流出	2,752億円流出	194億円流出	1,563億円流入
産業別生産額	1.輸送用機械 (3,854億円)	1.鉄鋼 (10,990億円)	1.輸送用機械 (3,774億円)	1.石油・石炭製品 (6,375億円)
	2.鉄鋼 (859億円)	2.化学 (1,499億円)	2.はん用・生産用・業務用機械 (1,160億円)	2.電気機械 (775億円)
	3.窯業・土石製品 (641億円)	3.建設業 (1,124億円)	3.非鉄金属 (940億円)	3.食料品 (774億円)
	...	...	...	...
	20.農業 (125億円)	27.農業 (38億円)	23.農業 (34億円)	29.農業 (21億円)
CO2排出量	1,309千t/年	1,950千t/年	1,161千t/年	1,364千t/年